

開学20周年を祝して



公益社団法人関西経済連合会会長
森 詳 介

奈良先端科学技術大学院大学の創立20周年にあたり、衷心よりお祝いを申し上げます。

振り返ってみますと、関西経済界では、1991年に、「奈良先端科学技術大学院大学支援財団」を設立するなど、奈良先端大の「けいはんな」への誘致に力を注ぎました。

その後、奈良先端大は、情報通信、バイオサイエンス、物質創成、あるいはそれらの融合分野において、フラットで柔軟な運営体制のもと、研究開発や人材育成で多大な成果をあげられ、まさに「科学技術立国・日本」を先導する役割を担ってこられました。これも、磯貝学長はじめ関係各位の多大なご努力の賜物と、心から敬意を表します。

先般、貴学を訪問し、強い印象を持ちましたのは、奈良先端大が、世界最先端の研究を、研究のための研究に終わらせるのではなく、社会との結びつきを重視した実学として進めていらっしゃることであります。実際に、「教員1人あたり特許ライセンス収入」や「教員1人あたり大学ベンチャー数」で全国の国立大学の中で1位に輝いておられます。開学以来20年間で、研究がビジネスを生み、ビジネスが人を呼び寄せて、その人がまた新たな研究を生み出し、次世代の人材を育てるというサイクルをしっかりと確立されていることを心強く感じました。基礎研究の充実、産学連携の強化により、我が国の産業競争力を高めていくことが喫緊の課題である中で、貴学が果たされる役割はますます大きくなっていくと存じます。

関経連では現在、奈良先端大をはじめ110を超える大学や研究機関が集積している「けいはんな」を、関西のみならず日本・アジアのイノベーション拠点とするための活動を進めております。これまで京都府や奈良県など関係機関とともに「けいはんな」の重要性を訴えてきた結果、本年8月には、国の「第4期科学技術基本計画」において、「けいはんな」が「国際的な研究開発拠点」として明確に位置づけられることが閣議決定されました。

さらに将来的には、「うめきた」のナレッジキャピタルなど他の研究拠点と「けいはんな」を有機的に結びつけて、関西全体のイノベーション力や産業競争力をさらに高めたいと考えております。こうしたことから、関経連としては、今後さらに奈良先端大との連携を深め、毎年共同で実施している「産学連携フォーラム」をはじめ、様々な分野で活動を強化してまいりたいと考えておりますので、これまでも増してご支援賜りますようお願い申し上げます。

今後引き続き、世界最先端の研究開発をけん引され、ますます貴学が発展されますことを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。